東京　明治十八年一月二十日　火曜日　第八百七十七號　日曜日休刊　定價金三錢

時事新報

從五位　國貞　廉平
稻垣　祿怡

叙任

○明治十八年一月十七日
叙正五位
任工部權少技長

社告

過日來一度ナラズ二度マデモ時事新報ニ社説ヲ掲ゲザルハ何故ソト諸方ヨリ御問責多キ其中ニハ記者ノ不勉強ニテモ原因スルカノ如ク申越サル、向モアレドモ全ク左様ニ無之世人ガ疾クヨリ承知セラル、如ク今回ノ朝鮮事變ニ關スル記事論説何様ノ事ニテモ一度外務省ノ檢閲ニ捧ゲ同省ノ許可ヲ得タル上ナラデハ新聞紙上ニ掲載不相成ト兼テノ御達有之夫レガ爲メ論説ナリ雜報ナリ既ニ編輯シ了リテ翌朝ノ紙上ニ掲クル手筈ニ致シ置キタモ其場ニ臨ミ掲載不認可ノ命下レバ編輯人ハ外ニ致シ方ナキユエ其論説其雜報又ハ長キ章句中ノ其一節丈ケヲ取リ除テドウナリカウナリ一日ノ新聞紙ヲ作ル事ニ御座候間ガ爲メ紙面ノ不体裁モアラン配達ノ渋滞モアラン是皆記者ガ不行屆ヨリ起ルノ結果ニシテ看客ニ對シ恐縮ノ至ナレドモ事情斯ノ如ク亦如何トモスベカラザルノ場合ナキニアラザルナリ看客諸君モ時事新報記者ノ身ニ爲リテ少シ計リノ事ハ寛恕シ玉ヘ

支那ノ談判ハ速ナランコトヲ祈ル

交際通信ノ不便ナル時代ニ於テハ人間社會ハ世界中ノ各處ニ相隔レテ各一小世界ヲ成シ利害榮辱共ニ其小世界ノ中ニ限リテ相互ニ關係アルコトシ活眼ヲ開テ其有様ヲ通覽スレバ甚ダ不都合ナルモノ多シト雖ドモ個々各別ノ小世界ニ於テハ自家ノ利害ヲ利害トシ自家ノ榮辱ヲ榮辱トシテ喜ブ者アリ又憂ル者アリ例ヘバ東洋ノ支那朝鮮日本ノ如キ古來久シク交通ノ路ヲ塞ナタルコトナレバ利害榮辱ノ感ヲ異ニシ各自國ノ内ニ閉籠リテ偏リ自尊大ニスルモ相互ニ關係ナケレバ恙ニ弁ズル者モナシ支那人ガ支那ノ内ニテ日本ノ事ヲ何ト輕蔑スルモ其輕蔑ノ聲ハ日本ニ聞エザルガ故ニ日本人ノ憤ヲ起サザルニ足ラズ日本人ガ自カラ神國ト稱シテ支那ヲ夷狄視スルモ支那人ガ自カラ夷狄ト思ハザレバ夫レニテ風波モナシ徳川時代ノ實例ニ朝鮮人ガ日本ニ使節ヲ遣ハスニ日本ニテハ朝鮮人ノ來朝ト稱シ其貢物ヲ献貢品ト名ゲテ島國ノ國王ガ隣貢ノ態ヲ修ルガ如キ奏ニ官爵ヲ其先方ノ朝鮮ニテハ巡撫ナド、唱ヘ「清道」ト書シタル旗ヲ押立テ、日本ニ來ルニ朝貢ハ扨置キ己ガ島國ノ地方ニテモ巡回スル位ノ風ニ過ギタルノ奇談アリ斯ル不都合ヲ眼前ニ見ナガラ惡シタル皆情モナク双方圓ク治マリタルハ畢竟不文ノ世ノ中ニテ外國交際ノ道理ニ暗ク又交通ノ不便ナルカダメニ世上一般ニ事ノ實ヲ知ラザルカ故ナリ左レバ昔年ノ外國交際ハ交通ノ不便ヲ便ニシテ無事ニ維持シ來リタルモノト云フモ可ナラン

然ルニ今ヤ世界ハ第十九世紀、蒸氣電信郵便印刷　利器ヲ以テ世人ノ見聞ヲ相互ニ通達スル其有様ハ地獄ノ形ヲ縮小シテ之ヲ掌ノ上ニ見ルニ異ナラズ國ノ利害ハ一國内ニ止マラズ人ノ榮辱ハ一社會ヲ限トセズ天下太平五穀豊熟スルモ外國ニ對シテ損害ヲ被ルトキハ其損害ハ内亂又饑饉ノ災ヨリモ大ナルモノアリ友冠交物榮然トシテ富貴食膳ノ秩序コ、ニ貴賤ノ隔絶止ク厳耻高クシテ榮辱ノ所在頗ニ分明ナルモ外國ニ對シテ輕侮ヲ被ルトキハ其耻辱ハ内國ノ萬物ニ及ブコトシ可ラザルモノアリ蓋シ古ノ利害榮辱ハ一局部ニ密閉シテ外ニ洩ルヽノ道ナカリシト雖ドモ今ヤ交通ノ利器ハ此利害榮辱ヲ戴セテ世界中ニ披露スルガ故ニ其影響スル所ノ廣大ナルモ亦稍レナキニ非ザルナリ

我時事新報昨日ノ朝鮮事變欄内「支那將官袁世凱吳兆有張光前ハ京城内ノ各處并ニ諸城門ニ布告ヲ掲示シタリトテ其全文ヲ記シタルガ今コノ文ヲ一讀スルニ文中洪奏植何々等ガ外兵ト結ブ不軌ヲ圖ルノ語アリ抑モ今回ノ事變タルヤ洪奏植ノ一類カ不軌ヲ圖リタルカ義挙ヲ企テタルカ義モ不義モ吾々日本人ノ知ル所ニ非ズ又關スル所ニ非ズト雖ドモ今ノ支那人ノ見ル所、又朝鮮故府ノ之レニ同意スル所ニテハ不軌ニシテ最モ悪ミ最モ賤シム所ノ者タルヤ明カリ然ルニ其悪ミ又賤シム所ノ者ガ外兵ニ結ブトハ如何ナル意味ナルヤ外兵トハ云ハデ知レタル我竹添公使ガ變乱ノ當日指揮シタル日本ノ護衛兵タルヿ明白ナレバ支那ノ將官等ハ在京城ノ日本兵ヲ目シテ自分等ノ最モ悪ミ最モ賤シンズル所ノ不軌以謀ニ一味徒黨シタル者ナリト斷定シ之レヲ布告ノ公文ニ掲ケテ公然ニ明示シタルモノナリ試ニ思ヘ我竹添公使ハ大日本國政府ノ名代ニシテ其職掌ハ都テ我外務卿ノ訓令ヲ奉シテ運動スルモノナリ違隔ノ任所柄ニ日韓ノ交通至便ナラザレバ横ニ應シテ臨時ニ公使一己ノ處分モアル可シト雖ドモ他國ノ内政ニ干渉スルガ如キハ至大至重ノ事柄ニシテ如何ナル事情アルモ如何ナル急ニ臨ムモ公使ノ独斷ニ任セザルハ明々白々タルヿニシテ又コレヲ内ニシテ我日本政府ガ何等ノ所要アレバ朝鮮ノ内治ニ手ヲ出スヿ可キヤ斷シテ其事ナキハ我輩ノ敢テ保證スル所ノミナラズ日本ノ朝野ヲ擧ケテ之ヲ明知スル所ノモノナリ然ルニ支那ノ將官等ハ漫ニ自家ノ臆測ヲ下ダシ他國人ニ誣ルニ不軌ノ徒黨ヲ以テス我輩ノ意平ナラント欲スルモ得ベカラザルナリ是レモ諺ニ云ヘル如ク交際通信ノ不便ナル時代ニ於テハ我レニ如何ナル臭名ヲ蒙ルモ其臭ヲ放ツノ道ナクシテ夫レ暴レスル中ニハ臭氣モ亦消滅スルノ場合アル可ケレバ一時々憤怒ヲ忍テ或ハ恕ス可シト雖ドモ今ヤ則チ然ラズ京城々門ノ布告文ハ其掲示ノ降間ニ米人コレヲ見タリ英人コレヲ膝寫シタリ獨リ亦然リ之ヲ見テ之ヲ電報シ之ヲ寫シテ之ヲ書通シ世界萬國漸ク之ヲ傳聞シテ際限アル可ラザルヤ明ナリ昨年ノ榮辱ハ仮令ヒ一時世ニ恐ナルモ次第ニ消滅シ今ノ榮辱ハ次第ニ世界ニ弘マリテ明ナリ古今時勢ノ相違ヲ考ヘテモイヨ〳〵以テ默々ニ附スベカラザルナリ今度井上大使歸朝ノ上ハ廟議一決必ズ大ニ支那政府ニ問フ所ノモノアル可キハ無論ノコトニシテ世人一般ニ信シテ疑ハザル所ナレドモ特ニ我輩ガ其事ノ迅速ヲ所願スルモノハ一日ヲ猶操スレバ其一日丈ケハ我レニ曲ヲ被ルノ日ヲ長クスルノ割合ニシテ其間ニハ我ガ耻辱ヲ世界中ニ廣クスルノ恐アレバナリ。

朝鮮事變

（昨日の續き）

○京城特報

井上角五郎

一月十一日朝鮮京城發

○日韓談判落着　議見の型日即ち一月七日井上大使い議政府ゑ出頭せられ朝鮮政府と談判を始めたり朝鮮政府にては金宏集（當時左議政ゑて車駕以前い外衙門事務なり）を以て全權大臣となし穆仁德（セレンドルフ）趙秉鶴ゑれを輔け井上大使と談判せんとせしが井上大使は金宏集か帯ふるところれ訓令に不滿足なる個處あるを以て當日は開談を斷はり更ゑに翌八日午前九時を期して議政府に會合せられゑりこの時井上大使は金宏集の訓令ゑ對し大に滿足を表せられ終に日本政府より朝鮮に對せるの要求を申出てしに朝鮮政府は異議あくこれを承諾したるに付九日には井上大使議政府に出頭して金宏集と新條約ゑ調印をゑしたり十日午後一時に井上大使は國王に謁して歸國を告げ翌十一日午前七時出立にて仁川港に出てられたり小生は今暫らく當京城に滞在する積なれば京城出立以後の大使一行の模様はこれを在馬關通信員より聞知及ばれ度し

○日支談判　井上大使には今回事變の日支交渉始末ゑ付支那の欽差大臣吳大澂と談判せる筈なりしゑ吳氏い井上大使に對し應答すべき全權なきゑ付何も談判はせざりしされども今回の事變い日韓の談判のみにて固より始末の付くべきあらず是より直くに日支の間の談判ゑ取掛るべきは明白ある事なり日支談判の結局は如何ゑるべきや和するも戰ふも此國にい大關係ゑる事に付小生い當分先づ此地に留まり諸事注意畫策し居るべし

○支那欽差大臣の揭示　今回支那より特派せし吳大澂及び穆昌は左の揭示を爲せり

欽差會辦北洋事宜大臣都察院左副都御史吳爲出示曉諭事照得本大臣欽奉大皇帝諭旨前往朝鮮查辦事件隨帶護臣兵丁原紮馬步等營分駐城内均宜一体嚴肅兼從重論議頒及營哨各官隨時約束遵守營規毋許恃勇遊蕩街衢藉端滋事所有購買食用等物尤公平交易不得恃強相爭致妨營務口角合行出示曉諭爲此仰各營辦勇人等知悉務宜恪守軍律無事不准出門該兵丁等倘敢任意在外遊行或滋生事端一經查出定即嚴行究辦決不姑寛各宜凜遵切々勿違特示

右諭通知

光緒十年十一月　日

告示　貼大街

○漢城府廳の揭示　京城の漢城府廳よりは左の榜示を出しタリ

榜

右榜諭事前月變亂之時無知小民急ニ於公憤ニ日本公使之出去也詬罵投石恣行毆傷實是國法之所當禁今聞日本公使因公幹ニ將於日間趨京云曲直論辨自有ニ政府處置軍民豈可ニ感若私憤擅目尊ニ常境ニ損國体ニ故以先行ニ揭諭若有ニ復讐ニ前日ニ投石詬罵之習者責勒斷不ニ饒貸ニ以此知悉毋ニ無ニ滋事之弊ニ宜當者

甲申十一月初九日（我十二月廿五日）　漢城府

○李載元尚ほ官職を保つ　李載元い獨立黨人あり議きに獨立黨に推されて議政に任せしが獨立黨已に政權を失ふて事大黨政權を執るに迫ひ乃ち去月七日李載元之上疏しく其官職を辭せり國王ゑれと許せり其翌日れ朝報を見るに左の箇條あり

左議政李載元上疏大槩敢隙必遇之疑實紊敬遷之恩事入啓答曰省疏具悉爾恨處之辭之乘執予所深知也所辭職名姑寛還收以安爾心爾其諒之仍傳曰此批答還史官傳諭然ゑ其後更に吏曹參判ゑ任せられタリ

○李範晋　昨夏支那駐劄事務樹勳ゑ解職せられたる朝鮮側班李範晋ゑ獨逸後何れ沙汰ゑ變后の政府ゑ

○革命政府の擧行を十二月四日朝報を十二しタリ

二十

傳曰自十七前傳敬遠拔

○博文局を探索せ遣さゑ且つ家屋ゑ從僕い一人殺されたん

○博文局局中に就き同ゑ外衙官吏採用せられ

○立花扉金しく往來せ引き揚ぐゑ勸めたり小多し記して

○御厩會の御厩會前十時貧者等ゑ及

御製

ふりつもる

皇后宮御

つかさひと

○高崎參事同縣へ出張せり

○縣令赴任たり

○參事院

○鉄道線路降ゑ本月中みなりと

○日耳曼定年一月以後國へ交ゑに見ゆ

○附錄　本登錄しさる